

発刊にあたって

1975（昭和50）年、沖縄国際海洋博覧会跡地を国営公園として、国において整備管理することが、閣議において決定された。

この国営公園は、国際的規模の亜熱帯性植物の宝庫として整備し、広く国民一般の利用に供することとされ、そのため、我が国における唯一の亜熱帯性植物の育成に関する調査、研究、技術開発、及びその知識の普及、啓発等を実施するとともに、国営公園の管理運営も行う機関として財団法人「海洋博覧会記念公園管理財団」が設立された。

1992（平成4）年11月国営沖縄記念公園首里城地区として首里城公園の一部が開園され、当財団は、海洋博地区と同様に維持管理業務を受託している。国営公園に隣接する県営公園についても併せて維持管理業務を受託し、一元的に管理している。

当財団は、亜熱帯性動植物に関する調査研究、技術開発及び知識の普及啓発、首里城に関する調査研究等並びに沖縄に所在する国営公園等の維持管理業務を行い、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的としている。

首里城公園管理センターにおいては、公園の管理運営と伴に、首里城に関する調査研究及び知識の普及啓発、展示資料の収集等を行う首里城基金の造成・管理運用を行っている。

首里城に関する調査研究は、琉球王国時代のおもに美術工芸品（漆器・書跡・絵画・染織・金工品他）について、多角的な視点から研究課題を掲げ、県内外の大学や調査機関、研究者から協力を得ながら、事業を実施している。事業を継続している中で新たな資料が発見され、最先端の技術や機器によって調査データの収集も充実してきたところである。

普及啓発事業は、琉球王国関連の資料の展示や図録・小冊子等印刷物の発刊、首里城見学会及び体験学習会の実施等を行っている。

これら前年度（平成21年度）に実施した調査研究・普及啓発事業の成果を『首里城公園管理センター 調査研究・普及啓発事業年報』として発刊することとした。本紙が今後の首里城に関する理解や更なる調査研究の一助になれば幸いである。

2011年3月

財団法人海洋博覧会記念公園管理財団
首里城公園管理センター

センター長 儀間真明